

# 日之影町立高巣野小学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

本校は、日之影町の西部に位置し、周囲を緑の山々に囲まれ、学校下は五ヶ瀬川が流れる豊かな自然に恵まれた環境にある。また、校区には、さまざまな石造物や史跡、団七踊り等の伝統芸能や伝統的な行事など多種多様な文化が残されている。

本校は、創立105周年目を迎えた、児童数52名の一部複式学級を含む小規模校である。全校児童が学年を超えて仲が良く、上学年生が下学年生の世話をよくしている。この小規模校の特色を生かし、異学年活動を取り入れた勤労生産、環境美化活動等を実施している。また、朝のボランティア活動にも全校児童で取り組んでいる。

さらに、保護者や地域の方々は大変協力的であり、行事等いろいろな面で進んで参加し、連携し合える雰囲気がある。学校・家庭・地域が一体となって、児童を中心に考えた教育活動を展開している学校である。

## 2 児童の実態

児童は、明るく素直で元気に学校生活を過ごし、学習にもまじめに取り組むことができる。しかし、話すことや聞くことにおいては個人差があり、少人数の人間関係に慣れているせい、人前での話や発表に自信がなく消極的になりやすい児童や、人の話を注意深く聞くことが十分身に付いていない児童もみられる。特に、自分の思いを自分の言葉でまとめて話すことが難しく、相互の考えを分かりやすく伝え合うコミュニケーション能力が不足していると思われる。

国語・算数の学力テストの結果をみると、基礎学力は向上してきているが、習熟度合や学習速度等の個人差が大きい。そこで、個人差を考慮しながら一人一人の学力を向上させるために、学習指導の工夫改善を図っている。

## 3 学力向上に向けた経営方針

児童一人一人の確かな学力の向上に努める。

- (1) 研修内容について共通理解のもとに、研修・実践を進める。
- (2) 学習指導の工夫・改善を通して、分かる授業の実践を行う。
- (3) 個に応じたきめ細かな指導の実践に努め、基礎・基本を確実に定着させる。
- (4) 補充・発展的な学習の充実を図る。
- (5) 家庭・地域と連携しながら、基本的な生活習慣・学習習慣の定着を図る。

## 4 教育課程内の取組

### (1) 学習指導方法の工夫

児童自らが課題を見付け、自ら考え、主体的に判断し、問題の解決を図ろうとする能力や態度を育てていくことが大切であると考え。そこで、1単位時間の基本的な流れを「みがく」「つかむ」「しらべる」「ふかめる」「まとめる」の5段階に設定し、児童の主体的な学習過程を目指している。

### (2) 個に応じた指導

一人一人の学習の理解度・定着度の違いに応じるために、少人数指導・習熟度別指導や個に応じたティームティーチング等、指導体制の工夫・改善を行っている。

### (3) 基礎学力定着のための取組

系統だった算数科においては、つまずきの解消のために各学年領域毎の練習プリントを作成した。ケースごとに整理して置き、学年を超えて自由に選択して利用できるようにしている。学習単元の関連する前学年のプリントでレディネスを把握したり、補充したりすることにも役立てている。



【練習プリント】

他の教科においても、学習の導入や終末段階に基礎的事項の定着を図るために、ミニテストを行っている。

### (4) 評価の在り方

#### ① 児童の評価活動

児童の評価意識を高めるために、学習の途中や終了時に相互評価や自己評価を取り入れるようにした。評価カードに「話し方・聞き方」の観点を示すことで、話し手や聞き手の目当てにつなげている。

#### ② 教師の評価

単元の指導計画を考慮して、観点別評価表を作成した。一単元を通して、評価活動を計画的に行うようにし、児童の変容や支援をメモして記録が残せるようにしている。

**自分の想いや願いを、  
自分の言葉で豊かに表現しよう！！**

---

【自分の1年間の目標】

【本時のめあて】 自分の考えとくらやみながら、しっかり聞こう。

5年 名前( )

---

月日( / ) 単元名

①	文章の内容や要旨を、把握しながら読み取ることができた。
②	書きたいことや伝えたいことを組立てや表現の仕方を工夫して書くことができた。
③	送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができた。
④	前の学年及び5年生で習った漢字を正しく書き、文章の中で使うことができた。

【児童の自己評価】

国語科学習における児童の実態調査											本単元における支援の在り方	
意	識					教師による実態把握					本単元における支援の在り方	
	国語が 好き	話す ことが 好き	書く ことが 好き	読書 が 好き	漢字 が 好き	関心・ 意欲	読 解 力	書 き 力	説 明 力	語 彙 力		読 書 量
1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★ 欲求に即して課せらる。 ☆ 自分の考えを必ず文章の中から理由付けさせる。
2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★ 進んで話し、楽しい読み物を薦めさせる。 ☆ 友達の見解を聞きながら、自分の考えを練りこませている。
3	○	▲	◎	▲	◎	◎	△	○	△	◎	◎	★ 人物の様子を読み取ること、語や文の働き方を考えて書くことが不十分。 ☆ 登場人物ごとに色分けし、アンダーラインを引かせる。

【教師による評価】

### (5) コミュニケーション能力を高める手立て

コミュニケーション能力を育成するために、指導事項を洗い出し、学年の重点事項をまとめ、話し合いを充実させていくために、次のような取組を行っている。

#### ① 発達段階に応じて身に付けたい「伝え合う力」

低学年、中学年、高学年になるに従って、身に付けさせていきたい「話し合う力」を相互交流能力ととらえ、発達段階や系統性を踏まえて指導していきけるようにした。

#### ② 話し方・聞き方の「あいうえお」・「話型表」

自分の考えや意見をしっかりと伝えること、相手の発表をしっかりと聞くことがコミュニケーション能力の基礎となるものである。そこで、話す・聞くことの基本となる事柄を関連付けた「あいうえお」の表と、話し合いにおいて自分の根拠を明らかにしたり、友達との関わりをもたせたり、まとめたりすることを意識的に行えるように発表の仕方をまとめた話型表を新たに作成した。



## (2) 日常の表現活動の場の工夫

### ① 学級スピーチ、集会活動の工夫

発達段階に合わせて取組を工夫している。低学年では、主語や述語の関係に注意し、順序よく話をすることや、友達の発表を聞いて質問や感想を述べるようにしている。中学年では、テーマを設定して、話題に合った話ができるように、高学年では、今問題になっている世の中の出来事をテーマに取り上げる等、内容を高度なものに変えながら実践している。

また、集会活動として、学年部の発表集会や委員会による表現活動等、発表の場を多く取り入れ表現力の向上を図っている。

### ② 読書活動の充実

「全校読書の日」（毎週水曜日）を設定し、この日は宿題を減らし、じっくり読書ができる環境を作っている。「読書貯金」カードも準備し題名と読んだページ数を記録するようにしている。

また、毎週月曜日の業前活動の時間を「読書」とし、定期的に保護者や教師による読み聞かせも行っている。

## 6 保護者・家庭、地域との連携

### (1) 家庭学習の習慣化

学年に応じて自主的な家庭学習ができるように「家庭学習の手引き」を作成・配付した。家庭においては、しっかり学習の習慣がつくように保護者の協力を呼びかけ、月末には、「家庭チェック表」において親子で家庭学習の様子を振り返り、反省してもらうようにしている。

### (2) 基本的な生活習慣

毎月「健康チェック」週間を設け、生活のリズムを確立し、基本的な生活習慣の形成を図っている。年間を通した健康目標を設定し、発達段階に応じたチェック項目をもとに、自分の生活を振り返るようにしている。

### (3) 親子ふれあい読書

毎月第3週末を親子ふれあい読書として、保護者の本に対する関心を高めている。形式は、親が子へ、子が親へ読み聞かせをしたり、それぞれが違う本を読んで読書の時間を共有したりと様々な読書環境づくりを行ってもらっている。読書の後は、親子それぞれの感想を記録して残している。

## 7 成果と課題（次年度の取組を含む）

### (1) 成果

- 伝える力の共通理解を図ったことで、目指そうとする児童の姿が明確になった。
- 学習指導法の工夫改善により、学習意欲も高まり、確かな習熟・定着につながっている。
- 話型表等を用いたことで、自分の言葉で自分の考えを発表しようとする意識の高まりが見られようになった。
- 読書活動に全校共通の取組として、家庭の協力を得ながら実施したことで、児童の読書意欲が高まってきた。

### (2) 課題

- 少人数指導を生かした評価支援の在り方を中心に、教師の評価活動の研究を深めていく。
- 児童相互のコミュニケーション能力を育成していくような場の設定と内容の充実を図る。